2．踏査概要　（3）雪裡川湿原流入部（直轄区間）

■視察状況

左岸側へ渡る様子

左岸旧川での説明

下流側へ向かう様子

旧川の状況

2号排水路出口へ到着（折り返し地点）

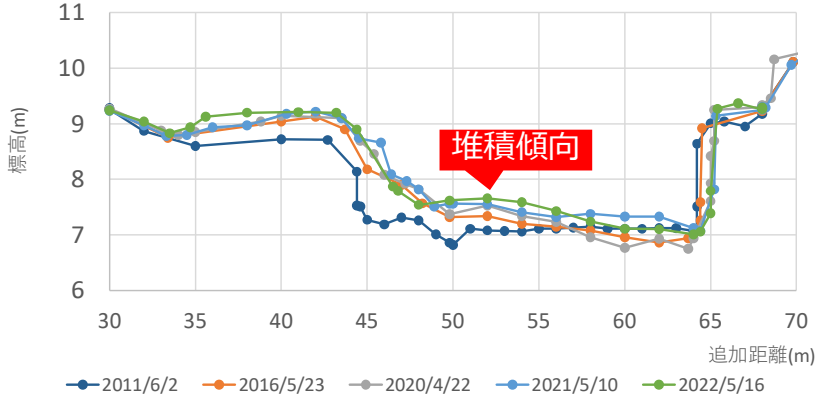
2号排水路出口での説明

■視察で確認できた事項

- 盛土部の部分的に低くなっている部分から、現状においても旧川へ水が流れ込んでいる。
- 旧川復元を実施した場合は、越水を許容し河道周辺と一体的に洪水流を流すことが想定されるが、水面のバックの影響は計算によりチェックすることが必要である。
- 2号排水路下流が狭くなっている経緯については現状においては、遡って確認できていない。
- 直線化によって、粗い土砂は堆積するが細粒分は下流へ流下しやすくなったと考えられる。細粒分を捕捉する対策の１つとして、人工ケルミが挙げらえる。

2．踏査概要　（4）幌呂川

➢ 幌呂川水位・流量観測所地点の河道状況を視察。

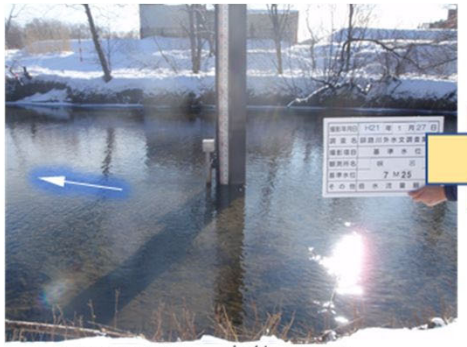


観測所測線の横断変化(2011年以降)

1974～1978　（地理院地図）

2013　（地理院地図）

2010年頃雪裡橋架替



2009/01/27　水位：7.25m

2017/09/08　水位：7.74m

2022/10/06　水位：7.94m

2011/04/13　水位：7.45m

2012/09/26　水位：7.54m

2022/04/20　水位：7.81m

2．踏査概要　（4）幌呂川

■視察状況

幌呂川での説明状況

幌呂川での質疑応答実施状況

幌呂川での質疑応答実施状況

■視察で確認できた事項

- 水位観測所地点の横断図の経年比較および現地写真により、幌呂川の河床が堆積傾向であることを確認した。
- 位況の経年変化が上昇していることからも、河道の堆積傾向を確認した。
- 実際に上記のとおり河道が堆積しているか現地視察により、確認した。
- 幌呂川においても、他の支川と同様に蛇行した旧川が残っており洪水時には水が流れている。